

27PA-am153

シナマオウ (*Ephedra sinica* Stapf) の挿し木増殖

○吉川 舜¹, 乾 貴幸², 吉松 嘉代², 河野 徳昭², 川原 信夫², 木内 文之¹ (¹慶應大薬, ²医薬健康研・薬植セ・筑波)

【目的】麻黄は、葛根湯や小青竜湯に配合される主要な生薬の1つである。麻黄の供給は、その全量を中国からの輸入に依存（平成 26 年度）しているが、中国は厳しい輸出規制を行っており、安定供給のために基原であるマオウ属植物を国産化することが求められている。本研究では、マオウ属植物のシナマオウ (*Ephedra sinica* Stapf) の草質茎を挿し穂とした挿し木により、発根個体を得ることを検討した。

【方法】シナマオウの草質茎を植物の上部から採取し殺菌した後、節で水平切りして約 15 cm の挿し穂を調製した。挿し床はパミスとし、深さ約 2~3 cm で挿し木した。底部から灌水し、人工気象器（温度 25°C、湿度 80%、照度約 7500 lux、CO₂ 1000 ppm）に約 3 か月間保管した。また、より適した条件を検討するため、挿し木期間と草質茎の切断方法は他の条件との比較を試みた。

【結果および考察】挿し穂の採取時期で発根率を比較したところ 2017 年 7 月 18 日は 60%と、6 月 19 日（10%）及び 8 月 18 日（20%）に比べて高かった。2016 年 8 月 5 日に行った挿し木における発根率も 50%と高く、それぞれ梅雨明けから 2 週間以内となっている（関東甲信越の梅雨明けは、2017 年が 7 月 6 日、2016 年は 7 月 29 日）ことから、梅雨明け頃が挿し穂採取の適期であると考えられる。さらに、挿し木期間を 4 か月間に延長したところ、発根率は 80%と 3 か月間（60%）より高く、草質茎の切断方法を比較したところ、斜め切り（10%）と比べ、水平切り・切り返し（それぞれ 30%）では発根率が高かった。これらの結果から切断方法は水平切りとし、挿し木期間を延長することで発根率は向上すると考えられる。